

# いかがでしたか？ 今年の文化祭・体育祭



## 文化祭・体育祭

発行

洛星新聞局

京都市北区小松原南町

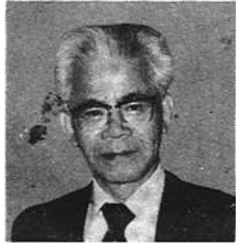
☎ (463) 3281 (代)

印刷/南片桐軽印刷



### 第三十五回文化祭を終えて

校長 村田 源次



国際青年の年にあたり、私達は個人的、民族的エゴイズム、閉鎖性を克服して世界平和確立をめざす青年になる様に努力することを忘れてはなりません。文化は国民の教養から生まれ出るものです。各民族は異なる風俗習慣によって生活様式も異なり、その為に文化も異なります。その文化を互いに理解することによって国際間に和が生まれ、世界平和のいしずえも出来るのです。文化はその国民の精神的教養の遺産です。しかし今日の機械化文明、情報化文明の為に生活の便利さが重視されて、ややもすれば精神文化は軽視される傾向があります。第三十五回文化祭は、「限りなき可能性」をテーマにしたユニークな文化祭でした。全校生徒の異なる可能性の結集によって新しい創造が出来たことに自信を持って下さい。身近な例から申ししましょう。各クラスの合唱コンクールは三部の異なる歌声の調和でした。又異なる楽器の調和が立派なオーケストラの演奏となりました。多くの聴衆を魅了しました。演劇も又同じことです。可能性の持主である人間各自の偉大さを知ることができたと思います。私は諸君が文化祭を終えた喜びで終らず、この人間の特別な偉大さが何処から生まれたか、何の為に与えられたかを考えて頂きたいのです。この命題に回答することがミッシ



ヨンスクールに学ぶ若人に課せられた課題と見えます。この課題を明白にすることによって、自分の生命に内在する可能性を引き出す謙虚な態度が生まれ、そこに他者との協力も生まれてくるものと確信しています。思い上った高慢な態度では一時的成功があったとしても、他者との協力、協調の精神がなければ平和確立に貢献もできません。重ねて申します。国際青年の年、青年こそ国際間を理解し、新しい人類の文化を創造できるのです。日本人の細やかな感情が自然の美をより美しく現実化しています。日本の庭園寺院、文学、芸能、音楽、日本風土に合った建築、これらはすべて日本固有のもので、日本人の尊い精神的遺産です。これからは科学的、技術的進歩による新しい文化を紹介する役目があるが諸君です。諸君は神が御自分の御姿に似せて創造された、限りなき可能性を持つ尊い精神生命の持主です。この自覚と誇りを持つことが、ミッシンで学ぶ若人の喜びです。これが先程の命題に対する答えです。神の宇宙創造の協力者として人間各自に与えられた可能性をより正しく伸ばす為に、文化祭終了に際して新しい気概で基礎学力を養う様に努力して下さい。

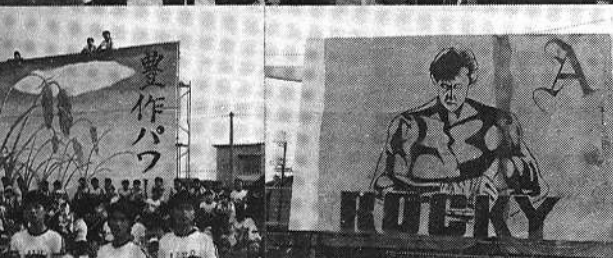
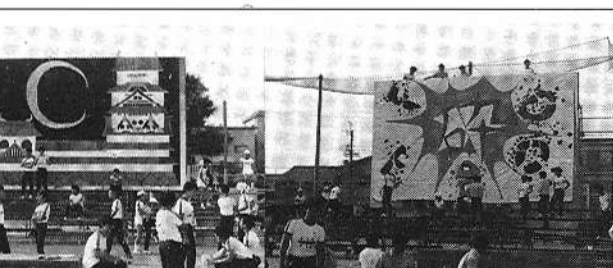
### 雨二モ負ケズ無事開催 第三十五回 体育祭

#### 総評

雨のために一日順延になったが、今年も盛大に行われた。グラウンドの状態が、あまり良くなかったため競技に支障をきたしたが、みんなとてもよくがんばってくれた。

今年も数人のヒーローが生まれたが、とりわけ森脇先生の御活躍が目立った。これが最後の体育祭となる高校三年生にはとても良い思い出となったことだろう。しかし、中には水を差すようなことをした生徒がいたことも事実で、とても残念である。参加者としての態度をしっかりと持つようにして頂きたい。

#### （デコレ寸評）



#### （アトラク寸評）

は気の毒だった。応援の優勝はCだったが、Cのアトラクはストーリー、テンポ、演技のまとまり等、どれをとっても文句の無い仕上がりになっていた。特に、暴政にたまりかねた農民達が一致団結して一揆を起すというストーリーは、まとまり過ぎていと言えなくもないが、明解で、善男善女が目十分に意識してあり、悪ふざけにはしった様な物が多かった他クラスと対称をなしていた。又、妙なおもしろ味を出していたのがFで、ストーリーは、亀をいじめていた少年が更生して、力を合わせてデコレを作った、何故か後から車が飛び出してきた、という他愛のないのだが、何処か心に残った。Bの「できるかな」は、大抵の人がノスタルジアを感じたろう事を思うと、真面目に見る人の事を考えてくれた数少ないクラスの一つだろう。しかし、できた言葉がありがたかったり、間延びしたりもした。小さくて見にくいというのは、もはや伝統となっており、どうしようもない事なのだろう。

#### 【成績表】

##### 《中 学》

- 優勝 C 595点
- 二位 D 434点
- 三位 B 425点
- 四位 A 379点

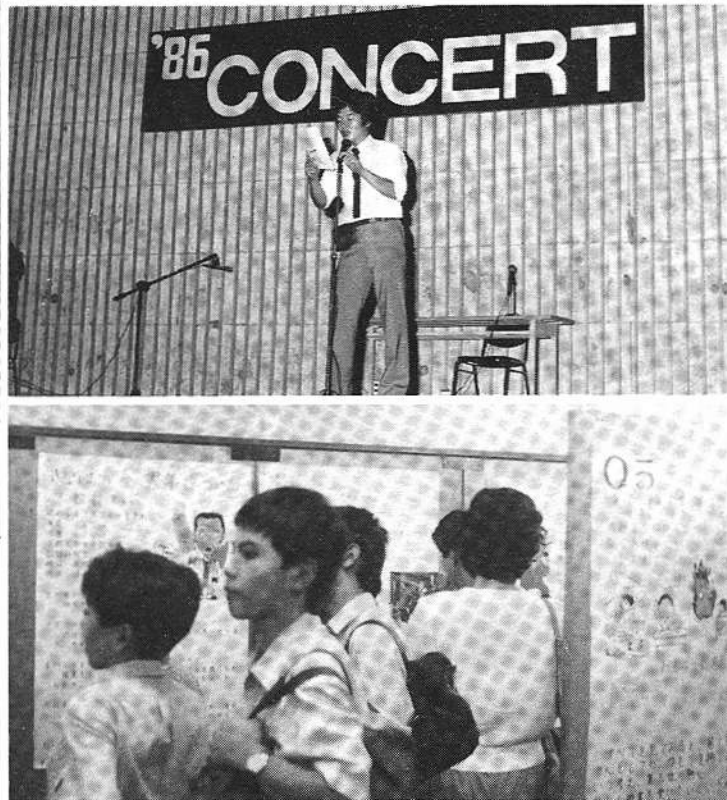
##### 《高 校》

- 優勝 F 748点
- 二位 C 733点
- 三位 A 689点
- 四位 B 593点
- 五位 D 585点
- 六位 E 582点

##### 《応 援》

- 優勝 C





今年の講演は「地球少女エリカ」と題し、長江裕明さんを講師に迎えて朝日新聞社、朝日イブニングニュース社主催「第九回高校生のための国際文化セミナー」として開かれた。長江さんは手づくりのヨット「エリカ号」で一家三人、四年九月月をかけた世界一周の航海をされて今年の四月に帰国されました。講演は、たくさんのスライドを使つての航海の体験談やヨットが出来上がるまでの苦労を話され、人の温かさや夢を貫く事のすばらしさを伝えられた。



講演

【表彰】

《演劇》

グランプリ  
中学アカデミー  
審査員特別賞

H II  
M 3  
M 3

《合唱(高校)》

最優秀賞  
優秀賞  
優良賞

H III B  
H III C  
H III A  
H I A  
H I C

《合唱(中学)》

最優秀賞  
優秀賞  
優良賞

M 3 C  
M 3 B  
M 2 B  
M 3 A  
M 3 D  
M 1 C

《展示》

最優秀賞  
奨励賞  
特別賞

なし  
地理部  
M 2

反応様々

マンネリ化は防げたか？  
限りなき可能性は求められたか？

去る9月19、21日、幸運にも恵まれて第35回文化祭が行われた。新聞局では第二面で演劇・合唱を中心に特集を組んでみた(中学演劇はH II Bの保田君に依頼した)。

演劇—新味でる？

〔中学〕

観客が相変わらず騒々しかったこと、他には、全体の印象というものはないので、学年別にひとふた言。

まず中一。脚本の演出難さを考えると、一応は上出来。装置も概して良かったが、少し綺麗に作り過ぎたのではないかと。特に壁などは中一。キャストが概ね力不足。シェン・テ(シユイ・タ)とて例外ではない。講師では、演じ分けができていたとして高く評価していたようだが、賛同できない。装置も少々雑であった。

最後に中三。台詞のタイミングは素晴らしいと思つた。またスタッフも、かなり細部にまで気を配っていたように、感心した。これらが一体となって、ラストなどは無意味な迫力があつた。二つの受賞も頷ける。

〔高校〕

今年の高校演劇は、例年通り一年・二年の二学年が参加した。

高一の作品は「Aマイナー」。一人の少年の退学を巡って、友人・家族・先生の様々なやりとりを描くのに、生き生きとした現実感が演技に溢れていて大変良かった。ただ、笑いの取り方に幾分ズレが見られる。

対して高二是「息子」というシリアスな時代劇。全体の半分以上が主役と老人の対話で進行する難物だが、キャストの良さと舞台装置の精密さで評価は高かった。しかし、やはり脚本に物足りなさを感じる者が多かったのではないかと。現代劇と時代劇、コメディタッチと人情物、と外見は違ふが、若者の屈折した心情を表現する点で共通のものがあったように思う。

合唱—例年通りか？

〔中学〕

中学合唱は二日に行われた。例年のように中学生以外の観客が少なかったことが非常に残念であった。

やはり3年生の活躍が目立っている。1年生や2年生と比べると選曲やハーモニーに経験の豊かさを感ぜさせる。それに對して1年生や2年生には練習のあとがうかがえるようなクラスが少ないのが残念である。そんな中で2Bや1Cはよくがんばつたと言えよう。

全体的にもう少し合唱に對して積極的な努力がもっとと盛れ上がるだろう。さて、ここで提案であるが、曲目を課題曲と自由曲とに分けてみるのはどうだろうか。そうすれば合唱に對する取り組み方もよくなると思うし、選曲もうまいくだろう。また聴衆の態度もよくなると思うのだが…。

〔高校〕

今年の高校合唱は例年通り高Ⅲが、最後の合唱の機会であるからかあんまりを見せ、ほとんどの賞を獲得し、最年長の面目躍如というところ。これに反して高Ⅱは文化祭の主催学年で多忙なのか、いま一つまとまりに欠けていたように思われる。が、去年の高Ⅱが優秀賞にまで食いこんでいた事を考えると、あなたがただけでないさそうである。代わって高Ⅲの奮闘が目立つた。特にHⅡDや最優秀賞をとったHⅢBと同じ選曲でありながら、入賞を果たしたHⅠAの努力は賞讃に値すると言えよう。

概して今年は選曲がよく、各クラス努力の跡が見られたが、高Ⅲが賞の大半を独占するという状況は何とかならないのか？来年の高Ⅰ、高Ⅱの奮闘に期待したい。

展示—今年も最優秀賞なし

〔中学校校舎展示〕

●学年展示  
●中学一年  
●中学二年

例年どおり縄文土器の展示と、地理模型の展示がしてあった。また今回は、夏休み中に書きあげたリポートがあり、なかなか力作だった。ただ毎年同じような展示がくり返されておられる。パターンからの脱却が望まれた。

●中学二年  
賞を取っただけであつて、なかなか良い展示だった。絶妙なイラスト(?)とインタビューがコンパクトにまとまっておき、好感を与えていた。しかしながら、惜しむらくは、自分達の結論というものが、あまりはっきりしていないかった。

●中学三年  
二つのグループにわかれ、それぞれがよく頑張つていて、しかしながら、相手方も読みにくかった。パートIの方は多くの資料やデータの見せ方に工夫が欲しかった。また、パートⅡはテーマと展示内容が少しずれていたのが気になった。

●クラブ展示  
●保健委員会  
歯をテーマに展示が行われていた。いろいろと歯についての説明がわかり易く書かれており良かった。

●点字  
今回は視点を盲人者側から社会的な点に移していた。見やすかったのだが、もう少し手を加えていても良かったのではないだろうか。

●地学部  
おなじみの岩石標本を中心に岐阜県恵那地方の自然を描いていた。写真入りで読みやすかったが、やはり文字が多かった。この点が少し惜しまれる。

●地理部  
放置自転車の問題を取り上げて、多くの資料をもとにうまくまとめられていた。話の進め方がうまい、問題に對して、自分達なりの結論が書けていた点が良かった。

●「高校校舎展示」  
●学年展示  
●高一展示  
●高二展示

東西の冷戦状態を解決し、世界連合をつくるという壮大なテーマに取り組んだ。配置もよく、興味をそそられた。飾つてあったフィギュアは何なんだろう？  
●高二展示パートI  
大きな影響力を持つていた「情報」を扱った。作るのも大変だったであろうが、読むのも大変です。  
●高二展示パートⅡ  
ありていに言えば、作りが雑でもの足りなかった。手を広げすぎたのではなからうか。やるならきっちりやつて欲しい。

小講堂フェスティバル

文化祭行事の中で今やすっかり市民権を獲得した小講堂は、インパクトのある「邦楽・洋楽」とソフトコンサート(生徒・先生)というプログラムで行われた。インパクトは、日ごろの陽たらないこの能力(?)が目の目を見る機会だが、賞状の名前が鉛筆書きだったとか、賞品にコーラ一杯もらったが、生ぬるかった、とかいう話

笠

約束を破るのは簡単だが、その後にはいったい何が残るのだろうか。▼ビデオアニメ「ウイング」はイサとパロという二国の約束と二組の男女の約束を軸に物語は展開する。百年の間守り続けられたその二国間の不可侵条約の破棄がパロの滅亡を、そして一組の男女の破局をもたらす。他方の男女は死別する。▼約束には、大きなものから小さなものまで様々なものがある。▼昔、指切り拳万ウソついたら針千本飲ますというのをやったことはないだろうか。約束を破ったからといって、「針千本」飲まされたりするわけではないが、その分人間の信用が落ちるわけで、約束を破ってもよいというわけではない。▼覚えておきたい人はほとんどいないと思うが、去年の後期高校生徒会長の立会演説における公約はどんなものであったか。約束を守れない時は、守れない理由を相手にはっきりと示さなくては、信用を落とす、相手方との間に多かれ少なかれ溝ができてしまうだろう(先の例の場合ほとんどないに等しいが)。▼人間、生きて行く上で、人と人との信頼関係は失いたくないものだ。そしてその信頼関係の上に成り立つのが約束である。▼(アニメ「ウイング」より)「ウイング」は哀しい物語である。何故にマリリンは一人死んで行かねばならないのか。この哀しみが「約束」を破った者に与えられる罰であるとするなら、最後に一人だけ生き残るイズーこそが、そのまま我々「現代に生きる者」なのであろう。我々が彼が経験したものと同じ後悔の念を何度も心の中にわかせたはずである。なのと同じ誤ちを繰り返すのは、何故であろう。それは、我々の心が、ほんの少しだけ鈍化している為ではないか…。

約束を破るのは簡単だが、その後にはいったい何が残るのだろうか。▼ビデオアニメ「ウイング」はイサとパロという二国の約束と二組の男女の約束を軸に物語は展開する。百年の間守り続けられたその二国間の不可侵条約の破棄がパロの滅亡を、そして一組の男女の破局をもたらす。他方の男女は死別する。▼約束には、大きなものから小さなものまで様々なものがある。▼昔、指切り拳万ウソついたら針千本飲ますというのをやったことはないだろうか。約束を破ったからといって、「針千本」飲まされたりするわけではないが、その分人間の信用が落ちるわけで、約束を破ってもよいというわけではない。▼覚えておきたい人はほとんどいないと思うが、去年の後期高校生徒会長の立会演説における公約はどんなものであったか。約束を守れない時は、守れない理由を相手にはっきりと示さなくては、信用を落とす、相手方との間に多かれ少なかれ溝ができてしまうだろう(先の例の場合ほとんどないに等しいが)。▼人間、生きて行く上で、人と人との信頼関係は失いたくないものだ。そしてその信頼関係の上に成り立つのが約束である。▼(アニメ「ウイング」より)「ウイング」は哀しい物語である。何故にマリリンは一人死んで行かねばならないのか。この哀しみが「約束」を破った者に与えられる罰であるとするなら、最後に一人だけ生き残るイズーこそが、そのまま我々「現代に生きる者」なのであろう。我々が彼が経験したものと同じ後悔の念を何度も心の中にわかせたはずである。なのと同じ誤ちを繰り返すのは、何故であろう。それは、我々の心が、ほんの少しだけ鈍化している為ではないか…。







